コスモスしえんだより　HP バージョン③

R5・10月

肢体教育部門で大事にしていること、それを実践するための教材の一部について紹介します。

ペガーボール

○目と身体の協調運動

ポンチョを着たペガー（鬼役）を追いかけてボールを当て、多くのボールをくっつけた方が勝ち。シンプルなルールなのでアレンジもしやすく、それぞれの障害にあわせた運動量で楽しめるのが特徴です。（NHK 福祉情報サイト ハートネット より引用）

＜子どもの姿＞

鬼になることで体をしっかり動かせたり、電動車椅子を自由に操って運転できたりすることから、鬼の役割も積極的に引き受けて楽しめた。投げる時の体の動かし方が、ゲームの勝敗への拘泥から自ら工夫し、上手になった。

玉入れや的当てゲームの代替ゲームとしても楽しめた。

＜アセスメント＞

・動く物に長く視線を合わせたり、捉えた方向に注目して身体をコントロールさせたりする動きに苦手さがないか評価する。

・歩行に時間を要したり、車椅子を使用している等により日常的に他者への働きかけに困難さがないかの環境評価。

＜アセスメントに対応した配慮事項＞

・体を動かしにくい子ども達でも互いを意識し、関わり合うことができるよう、ゲーム性を持たせることで楽しみながら主体的な活動を引き出す。

・目線の先が分かりやすいように、さらに視線が追いやすいように大きめの縞模様（コントラスト）のベストを着用。

・ボールは掴みやすく、身体機能に無理のない程度の重さで、投げている動きも見やすい位のはっきりした色のものを選ぶ。

・飛んできた玉を避ける動きが難しい子どもには頭部（顔面）を覆うフェイスシールドを装用する。

○目と手の協応

＜子どもの姿＞

活動中は自己選択、自己決定の連続になるため、環境の配慮で、より活動の内容が分かりやすくなり、主体的に進めることができ、集中して取り組む姿が見られた。

＜アセスメント＞

・視力等の視機能評価を手がかりに、見えやすい位置やコントラスト、色を把握しておく。

・姿勢、上肢、手指の機能を見て、使いやすい動き、位置や保持時間等を把握しておく。

＜アセスメントに対応した配慮事項＞

・見やすい色、コントラスト、力の調整に影響しにくい等に配慮した花の種類を選んでおく。身体機能面から、扱いやすく、適度に重みもあって倒れにくく、また目と手の距離も考えて差し込みやすい高さや色等に配慮した器を、生徒が選べるように複数準備する。

・器の白さが光の反射でわかりにくい時は、黒いマットを下に敷き、手元が分かりやすいように配慮する。

上記で紹介した教材を参考にする際は、児童の実態や課題を踏まえた上でのご検討をお願いします。